

人権教育に関する特色ある実践事例

基準の観点

各教科等における特徴的な指導の実践事例

1. 基本情報

○都道府県名及び市町村名

鹿児島県熊毛郡屋久島町

○学校名

屋久島町立安房小学校

○学校のURL

<http://www.yakushima-town.jp/anbou-es>

2. 学校紹介

○学級数

【通常の学級】 8学級 【特別支援学級】 2学級 【合計】 10学級

○児童生徒数

【全校児童数】 221人（平成25年11月18日現在）
（内訳：1年生34人、2年生44人、3年生38人、4年生36人、5年生41人、6年生28人）

○学校の教育目標、人権教育に関する目標など

【学校の教育目標】

○ 自ら生き生きと学ぶ心豊かな安房の子を育成する。

【人権教育に関する目標】

○ 自他の大切さに気付き、互いのよさを認め合うとともに、共に助け合って生きていこうとする子供を育成する。

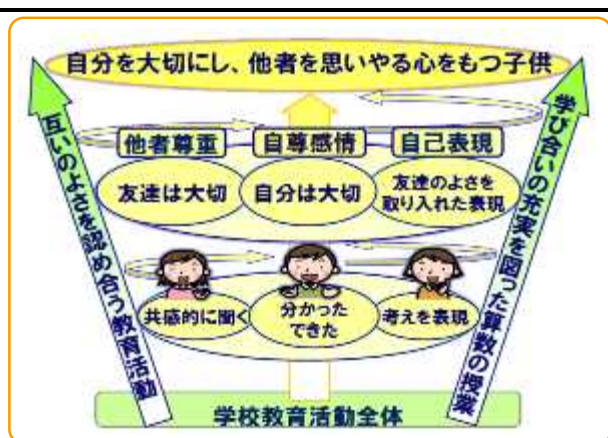
【平成23・24年度の研究テーマ】

○ 自分を大切にし、他者を思いやる心をもつ子供の育成

○人権教育にかかる取組の全体概要

○ 学び合いの充実を図った算数の授業
算数科における学び合いの系統性を明らかにするとともに、人権尊重の視点に立ち、1単位時間の学習指導過程や各過程の手立てを工夫する。

○ 互いのよさを認め合う教育活動
年間指導計画に基づいて、特別活動を中心に、互いのよさを認め、助け合う人間関係づくりを進めるとともに、人権に関する校内環境を整える。



【研究構想図】

3. 特色ある実践事例の内容

◆ 人権尊重の視点に立ち、学び合いの充実を図った算数の授業に関する取組

(取組のねらい)

算数科において、子供が、自分の考えを豊かに表現し、互いの考えのよさを学び合ったり、自他の大切さを実感したりするように指導方法を工夫改善することで、自分を大切にし、他者を思いやる心を育てていくようにする。

(取組を始めたきっかけ)

本校の子供は、山と海に囲まれるなど恵まれた自然環境の中、豊かな感受性を育てている。また、清掃や委員会活動にまじめに取り組んだり、各行事に目標をもって取り組んだりするなど、素直でひたむきである。

一方、本校の子供は、学校評価アンケートの結果から、自分の考えを表現することに苦手意識をもつとともに、友達の考えのよさを学ぼうとする意識が十分ではないことが分かった。また、各学力調査の結果から、算数科における一人一人の学力差が大きく、学習意欲も低いことが明らかになった。

これは、算数の授業において、自分の考えを表現したり、友達と学び合ったりする場の設定や手立ての工夫が不十分であったことが原因の一つである。その結果、子供の自尊感情と他者を尊重する態度を十分に育むことができなかったと考えた。

以上のことから、人権尊重の視点に立ち、算数の指導方法を工夫改善することで、子供一人一人が、学習する楽しさや喜びを味わいながら、自分を大切にし、他者を思いやる心を育てていくと考え、本取組を始めた。

(取組の内容)

1 本取組で目指す子供の姿

- 学習する楽しさや喜びを味わい、自分の大切さに気付く子供【**自尊感情**】
- 自分の考えを豊かに表現する子供【**自己表現**】
- 友達の考えを共感的に理解し、互いに学び合う子供【**他者尊重**】

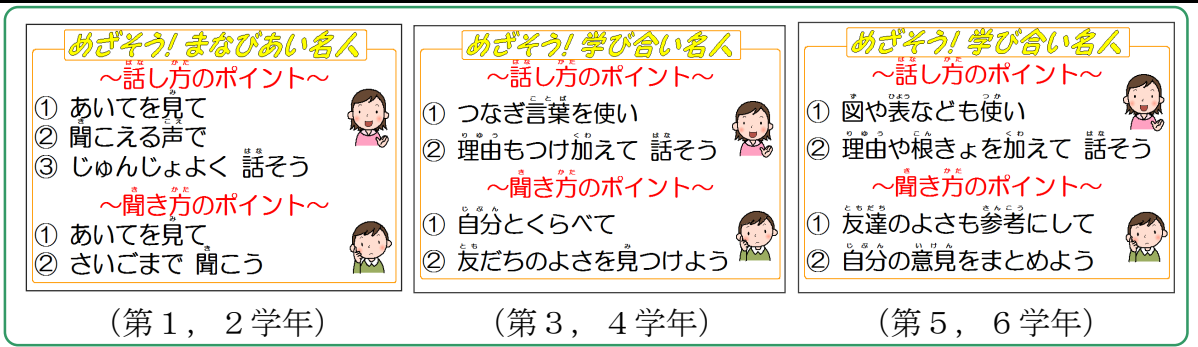
2 本取組の内容

- ① 学び合いの系統性の明確化
- ② 人権尊重の視点に立った1単位時間の学習指導過程の構築
- ③ 「考える」、「学び合う」、「生かす・見つめる」過程における手立ての工夫

(取組を実現するに当たって講じた工夫)

1 学び合いの系統性の明確化

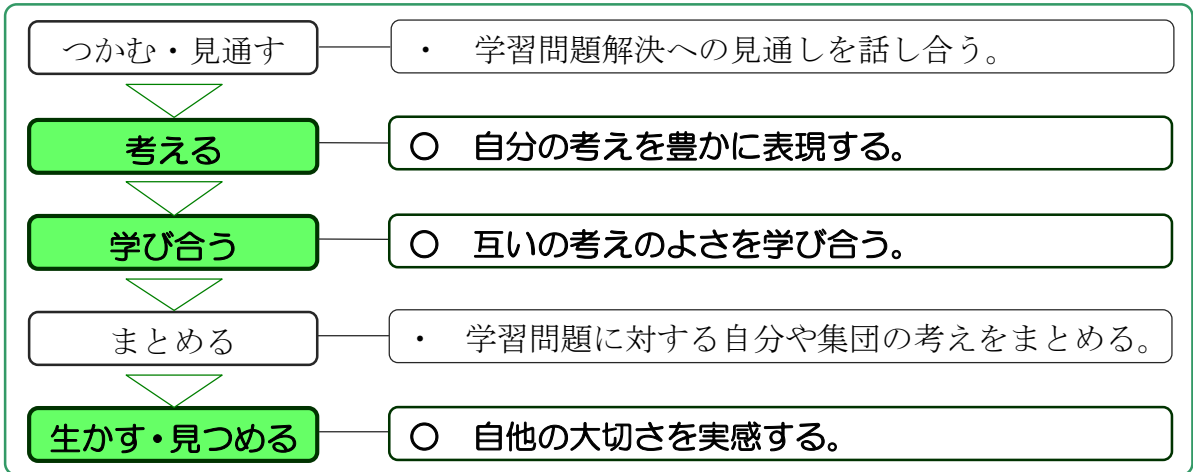
算数の授業において、子供が、学び合いの観点を意識しながら、自分の考えを豊かに表現したり、友達の考えのよさを見つけたりすることができるように、各学年で身に付けたい話し方と聞き方をカード「**めざそう！**学び合い名人」にまとめ、学び合いの際に提示するようにした（次のページの図1）。



【図1 学び合いの観点カード】

2 人権尊重の視点に立った1単位時間の学習指導過程の構築

子供が、算数科の目標を達成するとともに、自分を大切にし、他者を思いやる心を育てていくように、人権尊重の視点に立ち、1単位時間の学習指導過程を次のように工夫し、共通実践した（図2）。



【図2 算数科の1単位時間の学習指導過程】

3 「考える」、「学び合う」、「生かす・見つめる」過程における手立ての工夫

子供が、主体的に問題解決を図る中で、自分を大切にし、他者を思いやる心を育てていくように、各過程において次のように手立てを工夫し、共通実践した。

(1) 「考える」過程における自分の考えを豊かに表現するための手立て

子供が、自分の考えを豊かに表現できるように、必要に応じて、教具やヒントカードを提示したり、目的に応じて、書画カメラを使用したりするなどの工夫をした。



【具体物操作】



【書画カメラで発表】

(2) 「学び合う」過程における互いの考えのよさを学び合うための手立て

子供が、自分や友達の考えのよさに気づき、互いに学び合うことができるように、図1で示した学び合いの観点カードを示すとともに、学年の発達段階に応じて、学習形態を工夫した。



【少人数での学び合い】

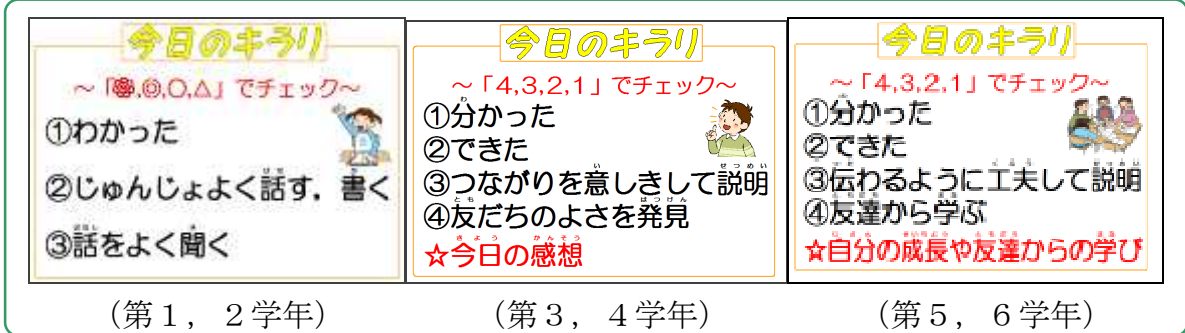


【全体での学び合い】

(3) 「生かす・見つめる」過程における自他の大切さを実感するための手立て

子供が、学習する楽しさや喜びを味わったり、自尊感情や他者を尊重する態度を育んだりすることができるように、「生かす・見つめる」過程における手立てを工夫した。

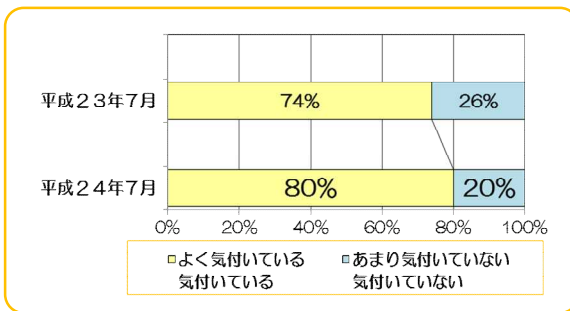
具体的には、3年生から、子供の意思を尊重しつつ、一人一人の学習状況に応じて、コース別学習を行った。また、学習の振り返りの観点カード「今日のキラリ」を示し、子どもが自分や友達のよさに気付く場を設定した（図3）。



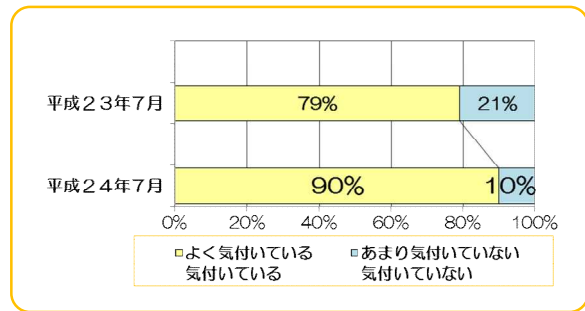
【図3 学習の振り返りの観点カード】

4. 実践事例の実績、実施による効果

(取組の実績)



【表1 自分のよさへの気付き】



【表2 友達のよさへの気付き】

表1、2から、若干ではあるものの、本取組を通して、自尊感情や他者を尊重する態度を育てている子供が増えていることが分かる。また、算数の授業の様子から、どの学年においても、自分の考えを進んで表現したり、友達の話を持感的に聞き、互いの考えのよさを認め合ったりする子供の姿が見られるようになった。

(取組が効果を上げた実際の事例)

ここでは、表1、2に見られた成果のように、子供が自分を大切に、他者を思いやる心を育てている姿が多く見られた二つの実践を紹介する。

1 第4学年の算数の実践

(1) 単元名 面積 (教材「面積」学校図書4年下)

(2) 本時(5/10)の目標

面積の求め方を説明し、互いの解決方法のよさを学び合う活動を通して、長方形や正方形の求積公式を活用し、複合図形の面積を工夫して求めることができる。

(3) 本時の実際及び考察

ア 「考える」過程における自分の考えを豊かに表現するための手立て

子供が、複合図形（長方形と正方形）の面積を求めるとができるように、具体物を用意したり、解決方法のまとめ方のヒントを書画カメラで示したりした。

その結果、自分なりに考えた複数の方法で、複合図形の面積の求め方をまとめる子供の姿が多く見られた。



【まとめ方のヒント】

イ 「学び合う」過程における互いの考えのよさを学び合うための手立て

子供が、自分の解決方法を説明するとともに、友達の解決方法のよさを学ぶ合うことができるように、ペアで話し合い活動をした上で、クラス全体で解決方法を交流した。

その結果、自分の考えに自信をもつとともに、友達の考えのよさに気づき、認め合う子供の姿が多く見られた。



【全体での学び合い】

ウ 「生かす・見つめる」過程における自他の大切さを実感するための手立て

子供が、自他の大切さを実感できるように、「今日のキラリ」を提示し、本時の学習を振り返る活動をした。

その結果、自分の解決方法を伝えた喜びを味わったり、友達の説明の仕方のよさに気付いたりする子供の姿が多く見られた。



【学習の振り返り】

2 第6学年の算数の実践

(1) 単元名 いろいろな形の面積（教材「面積」学校図書6年上）

(2) 本時（5／10）の目標

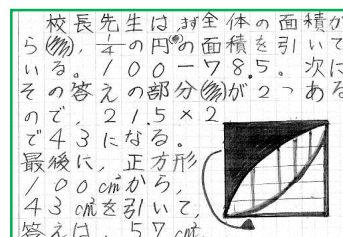
円を組み合わせた複合図形の面積の求め方を説明し、互いの解決方法のよさを学び合う活動を通して、図形の一部を移動したり分割したりしながら、既習の求積公式を活用して面積を求めることができる。

(3) 本時の実際及び考察

ア 「考える」過程における自分の考えを豊かに表現するための手立て

子供が、複合図形（正方形と円）の面積を求められるように、「先生方が、学習課題を解いた。」と設定し、関心をもたせる工夫をしたり、説明の仕方に関するヒントカードを提示したりした。

その結果、自分なりに解決方法を考え、ノートに進んでまとめる子供の姿が多く見られた。



【解決方法を説明したノート】

イ 「学び合う」過程における互いの考えのよさを学び合うための手立て

子供が、互いの解決方法のよさに気づきながら学び合うことができるように、少人数グループをつくり、解決方法を説明し合う活動をした。

その結果、互いの解決方法や説明の仕方のよさを学び合い、自分の考えを広げる子供の姿が多く見られた。

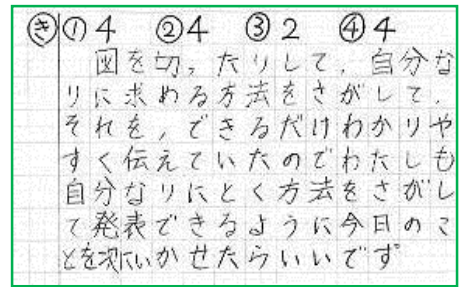


【少人数で学び合い】

ウ 「生かす・見つめる」過程における自他の大切さを実感するための手立て

子供が、自尊感情や他者を尊重する態度を育むことができるように、子供の意思を尊重して、コース別学習を行ったり、本時の学習の振り返りをしたりした。

その結果、学習する楽しさや喜びを味わいながら自尊感情を育むとともに、友達の説明のよさに気付く子供の姿が多く見られた。



【今日のキラリ（自己評価）】

5. 実践事例についての評価

（取組についての評価、及びその理由）

表1、2と算数の授業における子供の様子、本校の教職員の意見などから、本取組は、次のような成果があったと考える。

- ◎ 算数科における学び合いの系統性を明らかにすることで、教師は、目指す子供の姿を具体的に思い浮かべながら、算数の授業に臨むことができた。
- ◎ 人権尊重の視点に立った1単位時間の学習指導過程を構築することで、子供が、自分の考えを豊かに表現したり、友達の考えを共感的に理解し、互いに学び合ったりするように、教師は、目的意識をもって手立てを工夫することができた。
- ◎ 「考える」、「学び合う」、「生かす・見つめる」過程における手立てを工夫することで、子供が自分を大切にし、他者を思いやる心を育てていく姿が見られた。

（第4学年算数の授業を参観した他校の先生方からの御意見）

「4. 実践事例の実績、実施による効果」で紹介した第4学年算数の授業は、公開研究会授業として、他校の先生方にも参観してもらい、多くの御意見を頂いた。その一部を紹介する。

- ◎ 自分の考えをしっかりと発表したり、友達の考えを真剣に聞いたりしていた。子供の伝え合う力が育っていると思った。
- ◎ 自分の考えも正しいし、友達の考えも正しい。私もよいし、友達もよい。算数科の特性を生かしながら、人権感覚を育む授業であった。
- ◎ 学び合いの仕方や学習の振り返りの仕方は、他教科にも取り入れることができそうだ。参考にしたい。 など

（現在、実施に当たって課題と感じていること）

- 子供一人一人が、学習する楽しさや喜びを味わうことができるように、コース別学習の時間を確保する必要がある。そのためには、コース別学習を実施する授業を指導計画に位置付け、ティームティーチングを実施する等、計画的に行うことが大切である。
- 自分の考えを豊かに表現し、互いの考えのよさを学び合ったり、自他の大切さを実感したりする手立ては、他教科でも活用できる内容である。今後は、他教科にも取り入れることで、学校教育活動全体を通して、人権教育を進めていきたい。

【人権教育の指導方法等に関する調査研究会議によるコメント】

屋久島町立安房小学校

学習意欲や自尊感情を高め、表現力を磨き、他者を尊重する心を育むことが本校における人権教育の目標であるが、そのために算数の指導方法の改善を基軸にした取組を展開している点に特色がある。算数の授業における学び合いの系統性を明確にし、1 単位時間の学習指導における「考える」「学び合う」「生かす・見つめる」などの各過程に工夫をこらし、それぞれの目的を「自分の考えを豊かに表現する」「互いの考えのよさを学び合う」「自他の大切さを実感する」として位置付けている点が特に注目される。学校評価アンケートの結果から、自分の考えを表現することへの苦手意識や友達の考えのよさを学ぼうとする意識が不十分であることを確認し、そのことを踏まえながら、算数の授業に焦点をあてた取組を行っていることは、学校のていねいな現状分析に基づく人権教育の指導方法構築のプロセスを例示するものであり、このような形で教科における特徴的な指導を人権教育の視点で展開している実践は、大いに参考になるものである。